



# 認知症高齢者に対する作業を通じた健康促進に関する研究

保健福祉学部 作業療法学科  
准教授 西田 征治 (にしだ せいじ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3420号室  
Tel. 0848-60-1275 Fax. 0848-60-1275  
E-mail s-nisida@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： 作業療法学（身体・老年領域）

キーワード： 認知症, 健康, ウェルビーイング, 介護負担, 初期集中支援

## ● 主な取り組み・活動

65歳以上の高齢者の15%が認知症を有しており、その数は439万人と推計されています（平成22年厚生労働省）。そして、高齢化の進展に伴いその数は今後も増えると予想されています。そのような状況の中、主に認知症を有する高齢者とその家族が、より良い生活を送るための支援の方法について研究を進めています。

### 1. 作業に基づく訪問作業療法プログラムの開発

本プログラムでは認知症を有する高齢者が自宅で自分らしく、いきいきと過ごすための作業（活動）を特定し、それを実行可能にする支援の方法、戦略を明らかにします。そして、家族介護者がそれらの方法、戦略を実行する技能を身につけるよう支援します。同時に家族介護者の困りごとを解決する取り組みを行います。これまでの研究から、無気力な状態が改善し意欲的になる、妄想やトイレの失敗が消失する、家族の介護負担感が軽減するなどの効果が実証されています。

### 2. 作業療法グループ活動の有効性検証

認知症を有し病院や施設で生活している高齢者がグループ活動をすることの効果や意義を検証しています。近年は調理活動に着目し、継続して実施することによるウェルビーイング（よい状態）の変化、日常生活技能や注意機能の変化を検証しています。これまでの研究から集中力や日常生活技能を高める効果が示唆されています。

### 3. 作業遂行を促進する支援技術の開発

認知症の症状が進行し日常の活動に問題がみられるようになった高齢者に対して、失敗せずに作業（活動）を遂行できるよう学習する方法（誤りなし学習）や支援方法（構造化、視覚的手がかり）を確立するための実証研究を行っています。

## ● 今後の目標・抱負

主に認知症高齢者とその家族が住み慣れた地域でいきいきと生活できる社会を構築するために、作業療法士が担うべき役割、支援の方法を明らかにするとともに、作業療法の効果検証をしていきたいと考えています。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

- 認知症カフェの開設
- 地方行政や地域包括支援センターと連携した、認知症初期集中支援が機能していくための体制づくりの検討と実証研究。
- 訪問看護・介護事業所のスタッフを対象とした認知症高齢者とその家族に対するケアの助言や指導のための研修
- 認知症高齢者の入所施設や病院を対象とした、よりよい生活をおくるためのケアの在り方や作業療法の実践に関する研修と研究

## ● これまでの連携事例・実績

- 地方行政の介護予防事業への協力（認知症予防教室）
- 地域包括支援センターとの在宅認知症高齢者とその家族へ訪問プログラム開発研究
- 精神科病院（認知症治療病棟）での作業療法の有効性に関する実証研究
- 車椅子製作事業者とのシーティング（適切な座位姿勢）の効果に関する研究